

「宮城県広域防災拠点基本設計（案）」について

震災復興本部幹事会に設置されている宮城野原地区広域防災拠点整備推進部会において、「宮城県広域防災拠点基本設計（素案）」の取りまとめを行い、パブリックコメントや関係機関との意見交換を経て、別紙のとおり、基本設計（案）を策定したので報告するもの。

1 パブリックコメントの概要

〔実施期間〕平成27年8月3日（月）から平成27年9月2日（水）まで

〔意見提出〕7名，3団体

〔件数〕21件

○主な意見（概要）

- ・「宮城県広域防災拠点基本構想・計画（平成26年2月策定）」の内容が不十分であるため、基本設計（素案）は白紙に戻すべきである。
- ・維持管理費やコストの縮減を図るべきである。
- ・スポーツ施設等を配置するのではなく、広々とした芝生広場を整備すべきである。
- ・臨時離発着場や芝生広場の配置を見直すべきである。
- ・火気の使用も含め、平常時に子どもたちが遊びを通じ、防災に役立つ実践的な経験が得られる場とすべきである。
- ・自転車も利用出来るよう考慮すべきである。
- ・アイススケート場や、高齢者が運動に親しむことの出来る施設を建設すべきである。

2 県内市町村からの意見概要

〔実施期間〕平成27年7月30日（木）から平成27年8月28日（金）まで

〔意見提出〕7自治体

〔件数〕18件

○主な意見（概要）

- ・災害時の情報連絡に関する手法や体制を協議するとともに、資機材についても整備すべきである。
- ・海外からの支援受入れを想定し、案内標識等の整備においては外国語標記やピクトグラム等の配慮をすべきである。
- ・平常時における治安・防犯面の対策も含め、しっかりとした管理運営体制を構築すべきである。
- ・県災害対策本部の代替え機能を有する施設として考えるべきである。
- ・ヘリポートの西側に陸上競技練習用のレーンを設置したらよいのではないか。
- ・平常時には一般に開放し、また、イベントが行えるような施設とすべきである。
- ・建設費および維持管理費についてコスト縮減に努めてほしい。
- ・既存公園は仙台市の広域避難場所に位置づけられているが、広域防災拠点の整備を踏まえ、その位置づけを整理すべきである。